

民話絵本(昔ばなし絵本)

個人会員 吉村悦子



『はなたれこぞうさま』 川村たかし文 / 梶山俊夫画 / 教育画劇

初めての出会いはストーリーテリングでした。確か熊本弁と伺ったのですが、いい味わいで、こんな言葉で語れたらな…と思った矢先にこの絵本を発見。以来関西訛りで語っています。熊本から来ていた子が大笑いしてくれたときはニンマリ。あなたも声に出してみてください。熊本出身の方ぜひ語り方を教えてください。

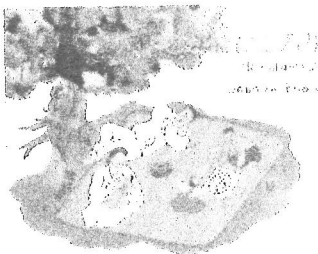


『あかりの花』 ^{ミャオ}中国苗族の民話 君島久子再話 / 赤羽末吉画 / 福音館書店
つる女房を思わせる展開に、ああやっぱりと気が沈み、ところが最後に…。赤羽末吉さんの世界が見開きのページに広がります。この話にあるように苗族の女性はいくつ代々細かな刺繍の技を伝えてきたそうです。



『おどリトラ』 金森襄作再話 / チョンスクヒャン画 / 福音館書店

なんと言ってもトラたちの愛らしい事。「こわーいトラがでてくる話なんやけど。」と切り出すと子どもたちが身構えます。そのとき絵本を出すと笑い声とともに子どもたちが引き込まれます。絵の力はすごいです。



『こかげにぞろり』 金森襄作再話 / チョンスクヒャン画 / 福音館書店

上記と同じ韓国・朝鮮の昔話。えらそうにしている地主を百姓たちがギャフンと言わせる知恵に感心し、展開に胸がずっと。東京書籍の国語教科書3年生にこの話があります。ところで、地主が被っている帽子を韓国時代劇でよく見かけます。(ちょっとはまっています) あれは程子冠(チョンジャグアン)といって官吏や儒生が家で被るものとか。衣装を見ると身分や時代背景が分かるヒントになりますね。

50年以上前、初めて手にした絵本は講談社の『鉢かつぎ姫』でした。このシリーズは一時「赤本」といわれ、評価が下がった時期もありましたが、力ある画家の絵も再評価されています。

6月

新学期が始まって2ヶ月、子どもたちにはどんな出会いがあったでしょうか。今月は「先生との出会い」をテーマに絵本の紹介をさせていただきます。

『せんせい』

大場牧夫・ぶん 長 新太・え 福音館書店 1992年
幼稚園や保育園でいつも一緒に遊んでくれる「せんせい」ってどんな人？子どもたちの声で語られる、大好きな先生のあんな顔こんな顔。ひとりの「人」が持つその存在の厚みを、温かく軽やかに教えてくれる頼もしい一冊です。



『くんちゃんのはじめてのがっこう』

ドロシー・マリノ さく まさきりこ やく
1982年 ペンギン社

くんちゃんは今日から一年生。嬉しさで胸をいっぱいにしてお母さんと学校へ向かいますが……。小さな子どもの歩幅に柔かに寄り添う先生に導かれ、くんちゃんの学びへの扉が今、喜びとともに開かれます。



『びゅんびゅんごまがまわったら』

宮川ひろ・作 林 明子・絵 童心社 1982年

こうすけがけがをしたことで、運動場に続く遊び場には鍵がかけてられてしまいます。遊び場を開けてもらおうと、こうすけたちは新しい校長先生にかけ合いますが……。あまのじゃくの校長先生とこうすけたちの真っ向勝負がはじまります！



『ポケットのたからもの』

レベッカ・コーディル 文 エバリン・ネス 絵 三木 卓 訳
リブリオ出版 2000年

小学校へ行く最初の日、ジェイは大事にしているこおろぎをポケットに入れて教室へ。り・り・り・・・こおろぎの声に気付いた先生は……。子どもの「たからもの」を、「たからもの」として受け止めることは、その子自身を受け止めることと別ではないんだと、ジェイと先生があらためて教えてくれます。

1980年にあかね書房より刊行されたものの復刊です。



(其枝なかよし文庫 西寺浄帆)

こんな絵本知ってますか？

個人会員 諸岡 弘



『およぐひと』 長谷川集平 解放出版社

東日本大震災「3.11」は現在もなお、多くの人々の心を苦しめています。この日のことを、しっかり伝えていかなければならない責任が私たちにはあります。この絵本のお父さんは被災地で見てきたことを、自分の子に伝えようとしますが、うまく表現ができません。この絵本を子供達に読むことで、多くを感じ取ってくれるような気がします。(発行：13年4月)



『むらの英雄』 わたなべしげお 文/にしむらしげお 絵 瑞雲舎

エチオピアのむかしばなしです。むかし、アディ・ニハスという村の12人の男たちが、町で仕事を終え、その帰り道に仲間が12人揃っているか数えてみた。ところが11人しかいなかった。「さあ大変だ！ 豹に喰われてしまった。」さてそれからどうなった？ クスンと笑える昔話です。復刊絵本。

(発行：13年4月)



『かめまんねん』 ほんまわか 文研出版

つるは千年、かめは万年といいますが、ほんまかめは長生きのようで、時間がたつぷりあるせいか、なにをするのも、ゆっくり、じっくり、やりました。と、おはなしがはじまります。いろいろな動物たちが、暇なかめに頼み事をします。それを見たつるは、だいじょうぶかいなと心配して、かめを助けようとしませんが、かめは一向に気にしていません。「かめへんかめへん」と。つるとかめは漫才のかけあいよろしく、最後はだじゃれで落ちがつきます。大阪弁がよい味出ています。(発行：13年2月)



『こんぶのぶーさん』 岡田よしとか ブロンズ新社

海から出てきたこんぶのぶーさんは、おそうざいやさんで、こんぶ巻きになりました。そして「あれはおそうざい、これはぼんさい、さっきたべたのはぜんざい…」とわけのわからないことを言ったあげく、「よし、ぼく漫才師なる！」と相方を募集します。はたして相方はみつかるのでしょうか？ こんぶ、メザシ、ゆでたまごといった食べ物に、人間的な味がつけられて、歩いたり、しゃべったりするナンセンス絵本、既刊の『ちくわのわーさん』『うどんのうーやん』もよろしく！(発行：13年3月)

この春出版された絵本をご紹介します！

読んでいるうちに思わず鼻の奥がツーンとしてくるような絵本を紹介します。
登場人物に心を添わせて、流す涙もいいものですね。

(個人会員 寺浦 桂子)



『さっちゃんのまほうのて』

田畑精一・先天性四肢障害児父母の会共同制作 (偕成社)

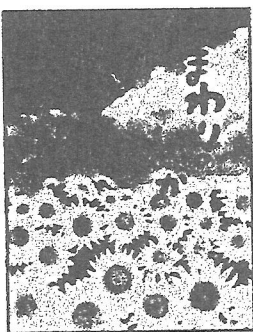
幼稚園のおままごとで、おかあさん役をやってみたいさっちゃんは、友達から「手のないおかあさんなんてへんだからおかあさんになれない」と言われてしまいます。どうして指がないのか、大きくなっても指が生えてこないという現実を、さっちゃんに答えるお母さんの言葉と、それを受け止めきれない幼子の葛藤が辛い。



『ちよっとだけ』

瀧村有子作 鈴木永子絵 (福音館書店)

二人目の赤ちゃんが生まれて忙しいおかあさん。おねえちゃんになった女の子が自分のことは自分でやろうとする姿が健気です。いつのまにか「甘えちゃいけない」と思っていた女の子に、ふと手の空いたおかあさんがかける言葉がホロリとさせます。「ちよっとだけ」このひとことが、どんなに大きい事か……ギュッ♡



『ひまわりのおか』

ひまわりをうえた八人のお母さんと葉方丹作 松成 真理子絵 (岩崎書店)

東日本大震災の津波で襲われた石巻市の大川小学校。わが子を亡くしたお母さんたちが小学校の近くの丘にひまわりを植えはじめました。もう会えない子どもへの思いを込めてひまわりの世話をします。おかあさん達の心の吐露が悲しいです。



『マリアンは歌う』

パム・ムニョス・ライアン作 ブライアン・セルズニック絵 (光村教育図書)

世界的な指揮者アルトゥーロ・トスカニーニから「100年に一度しか聞けない声」と讃えられたマリアン・アンダーソンの物語です。冷酷な黒人差別にも驚くが、マリアンがどんな時も誇りを失わず、自らの歌声で自身のそしてあとに続く黒人音楽隊たちへの道をひらいた姿に感動します。あとがきを読んでから、最初と最後の絵を見直すと……マリアンの積年の思いがドッとこみ上げ、歌声が聞こえてくるような気がします。

♪ 音楽で仲間ができた ♪

ブックトークと本棚の会 中野真生



『セロ弾きのゴーシュ』 宮沢賢治/作 赤羽末吉/絵 (偕成社)

今年没後80年を迎える宮沢賢治の最後の作品といわれています。楽団で楽長に叱られてなげやりになっているゴーシュは、毎夜訪れる動物たちと関わるうちに大切なことに気がきます。少々動物虐待的な部分も気になりますが、それよりも人と動物の信頼関係で結ばれたつながりを感じてほしいと思います。夜道を暗い気持ちでとぼとぼと家へ帰るゴーシュの姿と、ラストの動物たちを思っただけで夜空を見上げるゴーシュの絵は、賢治の心象世界をよく表していると私には感じられます。



『野原の音楽家 マヌエロ』 ドン・フリーマン/作 みはらいずみ/訳

(あすなろ書房)

ゴーシュと同じくチェロを弾くカマキリのマヌエロも、初めはコオロギやキリギリスから、その羽じゃ音を出すのは無理、と馬鹿にされていました。何とかきれいな音を出せないかとあれこれ考えますが失敗ばかり。諦めかけていたマヌエロを励まし協力してくれた友達のおかげでマヌエロはチェロを弾くことができるようになったのです。その友達は…表紙の絵にヒントが。



『ハーモニカのめいじん レンティル』

ロバート・マックロスキー/文と絵 まさきりこ/訳 (国土社)

きれいな音を出せなかったのはマヌエロだけではありません。うたおうと思って口を開けても歌うことのできない男の子、レンティルもそうでした。自分も何とかして音楽ができるようになりたいと思ったレンティルは、お小遣いをためてハーモニカを買いました。ハーモニカが吹けるようになってレンティルにはとてもいいことが起こったのです。どんなことが起こったのでしょうか。

『とんとんみーときじむな一』 田島征彦/作 (童心社)

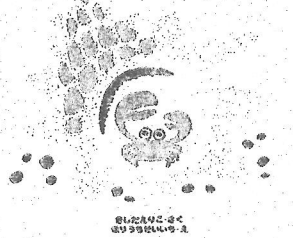
今回ご紹介した本のタイトルには、たまたますべて主人公の名前が入っていました。沖縄の島々に住むという妖精(妖怪?) きじむな一の一人はとんとんみーと呼ばれる少年の唄声に魅かれ、友だちになりました。その友達を救うために、きじむな一がとった行動とは…
染織家・田島征彦氏の美しい絵が印象的な作品です。



声に出して読むと、なんだか楽しい、なんだか気持ちいい。読んであげるのはもちろん、子どもに読んでもらっても耳に楽しい、そんな絵本をご紹介します。

(其枝なかよし文庫 西寺浄帆)

かにこちゃん



『かにこちゃん』

きしだえりこ・さく ほりうちせいichi・え

くもん出版 2008年

海が大好きなかにこちゃん。砂山を登る足どりも軽快に、かにこちゃんたちの美しい一日が、鮮やかに描き出されます。1967年に世界出版より刊行され、2008年に待望の復刊をとげました。

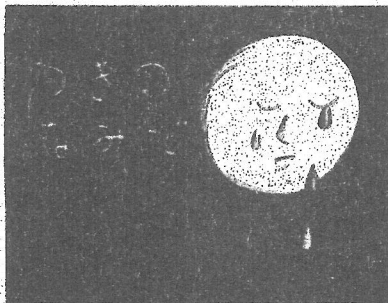


『だっこ だっこ ねえ だっこ』

長 新太・さく ポプラ社 2005年

幸福な瞬間を一定のリズムでユーモラスに紡いでゆく「長 新太ねえねえ・えほん」シリーズの第一作。小さな子でもあつという間に覚えてしまう節回しと愉快的な親子？のふれあいに思わずにっこり。

『あんよ あんよ ねえ あんよ』『おんぶ おんぶ ねえ おんぶ』と併せてどうぞ。

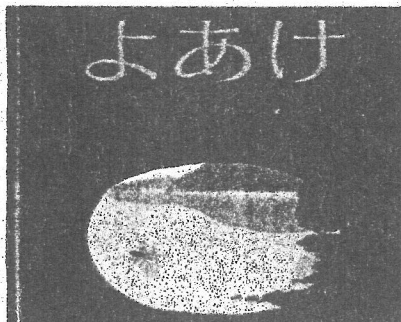


『つきのなみだ』

青柳 拓次・さく nakaban・え

mille books 2009年

夜、月の涙でできた池にやってきたのは…。音楽活動が続ける作者ならではのと思わせる、動物たちのなき声の表現がさりげなくも新鮮な一冊。



『よあけ』

ユリー・シュルヴィッツ 作・画 瀬田貞二 訳

福音館書店 1977年

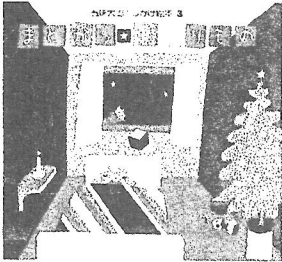
おじいさんと孫が湖で迎える夜明けのひと幕。絵の美しさもさることながら、静けさの中から浮かび上がってくるような言葉そのものの響きに、思わず耳をそばだててしまう、瀬田貞二さんの訳が素晴らしい一冊。

Joy to the World

風の子文庫 蚊野美加

まどから おくりもの

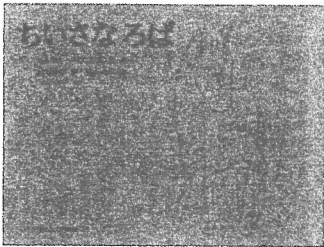
五味太郎 作・絵 偕成社



おくりものを配りに来たサンタクロースさん。小さな窓からお部屋の様子をのぞいて、「ここはねこさんのおうち」「ここはしまうまさん」と、次々その子にぴったりのおくりものを決め、窓からぼとり。ところが、ページをめくると・・あらあら勘違い！そこに住んでいたのは誰でしょう？貰ったプレゼントはどうするのか？五味太郎さんの、楽しい仕掛け絵本。

ちいさな ろば

ルース・エインズワース 作 酒井 信義 絵 石井桃子 訳 福音館書店



クリスマス・イブの日。ちいさなろばは、ぼくじょうの囲いの中にひとりぼっちです。女の子たちから初めてサンタクロースのプレゼントの話を聞き、ここにも来てくれたらと願います。するとその晩、ろばの所に「けがをしたトナカイの代わりにそりを引いてほしい」とサンタがやってきます。懸命に手伝いをしたろばに、翌朝届けられた素敵なプレゼントとは？心静かに味わいたいクリスマスのおはなし。

くるみわりにんぎょう

E・T・A・ホフマン 原作 アンマリー・アンダーソン 再話
アリソン・ジェイ 絵 蜂飼耳 訳 徳間書店



クララがクリスマスプレゼントにもらったのは、くるみわり人形。真夜中、ねずみたちに襲われている人形を助けてあげると、人形は王子の姿になっていました。そしてクララは王子と共に菓子の国へ。金平糖の精の踊りに、花のワルツ・・・華やかなバレエの世界が、絵本の上で色鮮やかに愛らしく再現されます。どこからか、チャイコフスキーの音楽が聞こえてきそうですよ。

クリスマスってなあに？

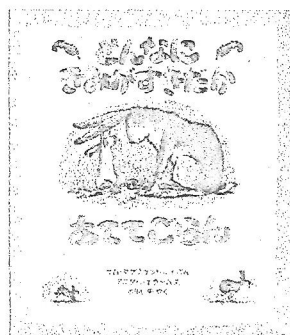
ジョーン・G・ロビンソン 文・絵 こみや ゆう訳 岩波書店



暖炉を囲んで聞くイエスの誕生物語から、十二夜の1月6日のおかたづけまで、イギリスの子どもたちがクリスマスをどのように迎え、過ごすのが1冊にたっぷり。プディング作り、サンタクロースの来る夜、教会でうたう讃美歌、テーブルいっぱいのごちそう。家庭での温かな情景が、クリスマスの喜びと幸せを伝えます。レトロな絵も素敵。

愛情をつなぐ、絆をつなぐ。

(うさぎ文庫 赤畑千代子)



『どんなに きみが好きだか あててごらん』

サム・マクブラットニイ 文 アニタ・ジェラーム 絵 小川仁央 訳 (評論社)

おたがいにすき！の大きさを示しあう

ちいさなちいろのウサギと、おおきなちいろのウサギたちが、はじめは小さい例えから始めていくうちに、だんだん体全体を使いお月さまの高さまで「きみがすきなんだ！」と。こんなに好きなんだと言ってもらえる幸せを皆さまも味わってみて下さい。すっきりした絵の雰囲気もすき！



『わすれられない おくりもの』

スーザン・バーレイ 作/絵 小川仁央 訳 (評論社)

身近にいる人を失ったとき周りの人はどうのりこえていくのでしょうか。

もの知りのアナグマは自分の命がそう遠くないことを悟ります。しかし体がなくなっても、心は残ることを知っているアナグマは、みんなに自分の知恵を分け与えます。アナグマが死んだあと、みんなは悲しみにくれますが、教えてもらったことを思い出し、残してくれたもののゆたかさに悲しみを乗り越えていきます。



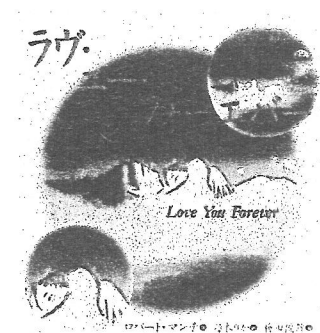
『ちいさなあなたへ』

アリスン・マギー 文 ビーター・レイノルズ 絵 なかがわちひろ 訳 (主婦の友社)

かわいいかわいい娘。宝物の娘もいつか社会に出、そして結婚、出産。これからどんな人生を歩んでゆくのか…。そんな母としての喜びや不安。

娘への思いの深さに、気付かせてくれる大切な一冊です。

シンプルな絵も素敵です。



『ラヴ・ユー・フォーエバー』

ロバート・マンチ 作 梅田俊作 絵 乃木りか 訳 (岩崎書店)

やんちゃだったぼうやもやがて大人に。

アイ・ラブ・ユーいつまでも アイ・ラブ・ユーどんなときも わたしがいて
いるかぎり あなたはずっと わたしのあかちゃん

愛をいつばいうけとり、またうけわたしていける素晴らしさが詰まっているお話です。

♪子どもといっしょに楽しむ絵本♪

京都 YWCA 親子ライブラリー 橘まゆみ

日頃、子ども達と絵本を使ったワーク（読み遊び）をする機会がよくあります。そこで「手応え」のあった本を何冊か紹介したいと思います。



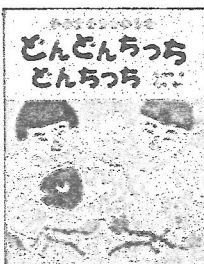
ねえ、どれがいい？

「ねえどれがいい？」
ジョン・パーンガム 作
〈評論社〉

*「Which?」の問い掛けに答え
てもらおうと、その理由や思いが
次々と口に出て、みんなが参加し

やすい絵本です。自分達が自由に考え出した究極の
「Which?」を出題してもらうなど広がりがあります。

「ねえどっちがすき？」
安江リエ文 降矢奈々絵
〈福音館書店〉



「どんどんちっち
どんちっち」
川崎洋作 〈学研〉

*言葉遊びの絵本は数多くありますが、対象年齢も幅
開く、インパクトある長新太さんの絵力で、子ども達
にも人気の絵本です。この中の、どの作品をどういうカタチで楽しんでもらう
かは、提示する側の腕の見せ所。こちらの思惑以上のパフォーマンスを発揮し
てくれる子ども達の底知れぬパワーと無限の可能性に、いつも感動しています。

*閉じた傘1本を、子ども達の輪の真中に置き、思いついた人から自由に「発
想」してもらおうというワークは、いつでもどこでも大盛況。マイク、バット、
箒、鉄棒、空中ブランコ、剣、そして道路工事が始まり、象の鼻になって振り
上げられ・・・と、留まることを知らぬ想像力は、まさに絵本をみた後だからこ



そ。「耕された心」に種まきの刺激を試みて、夢中にさせてみて下さい。

「おじさんのつえ」
五味太郎作 〈岩崎書店〉



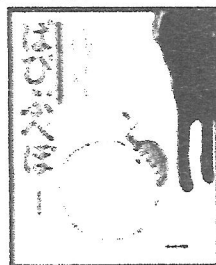
「かおかおどんなかお」
柳原良平作 〈こぐま社〉

*小さい子でも絵本と同じ顔をしてみたり、ママ
の表情を見たり、ちょっと大きくなったら、セリフをつけたりと、そんな余
地がたくさん潜んでいる絵本です。お年を重ねた方にこの本を読んで頂いた
時、その人生を語って余りある、豊で深い味わいのある表情と声の魅力に、

思わず涙腺が緩みそうになった事が、強烈な印象となって残っています。

*この本は、所謂アート型のワークに用いることの

出来る一冊です。自由な言葉（オノマトペも可）の短冊を作り、無作為に選
択した一枚から広がるイメージの絵を描いたり、逆に好き勝手な抽象画を描
いてから、後付けで合う言葉をみんなで選ぶというのも面白い作業です。



他にも、絵描き歌やからだの絵本、沢山の不思議を扱った興味をそそる絵
本等々「遊び」に発展させられる絵本はまだたくさんあります。

子ども達と一緒に、これからも「五感」全てを使って、絵本の世界を
大いに楽しんでいきたいです。

「いろながれ かたち
うごいて ぱぴぷぺぽ」
元永定正作
〈光村教育図書〉

高学年向きの絵本

お話会で子どもたちと世間話をするときや、語ったお話から発展させて子どもの視野を広げたいとき、また、こどもに知識をひけらかしたい！？とき、読んでおくと役に立つ絵本を紹介します。

中・高学年のブックトークにもお薦めの絵本です。

(風の子文庫 村上郁)



こんな家にすんでたら

ジャイルズ・ラロッシュ 訳：千葉茂樹 / 偕成社 2013年2月

人の住居は、気候や地形や産業に適して造られます。スペインのグラナダでは、洞窟の家で、煙突が山から突きだしています。中国福建省のドーナツ型の土楼には、何十もの家族が一緒に暮らしています。アメリカやメキシコの乾燥地帯にあるのは、日干し煉瓦でできた家。入り口は屋根の上だから梯子を上って入り、敵が来たら梯子を引きあげます。移動式のパオやキャンピングカー。見開きで世界の家が精緻なペーパークラフトで描かれています。解説も丁寧です。



淀川ものがたり お船がきた日

小林豊 文・絵 / 岩波書店 2013年10月

朝鮮通信使のことはご存知ですか？室町時代から江戸時代にかけて、朝鮮から日本にやってきた外交使節団です。この絵本の舞台は江戸時代。役人だけでなく、医者や画家、僧等々総勢500人余りが、歌舞音曲を携えて、大阪の港から淀川を遡ります。大勢の民衆が喜んで迎え、お祭りのような騒ぎです。トメと市、ふたりの子どもの視点で描かれます。



ならの大仏さま

加古里子 文・絵 / 福音館書店 1985年3月

大仏さんは誰がつくったか知っていますか？そう、聖武天皇。いや、大工さん。いえ、大工さんには銅製の仏像は造れません。聖武天皇の命を受けた行基が、自らの土木集団を率いて造りました。聖武天皇がなぜ大仏を造ろうとしたのか、歴史から説きはじめ、どのような方法であの大きな仏像を建立したのかが明かされます。さらに現代に至るまでどのように守られてきたのかが描かれ、人間の歴史について考えさせてくれます。



しごとば 東京スカイツリー

鈴木のりたけ 作 / ブロンズ新社 2012年4月

しごとばシリーズの最新刊。スカイツリー大解剖図はとにかくすごい。このシリーズは、これがプロの仕事だよと、大人が胸を張って子どもと読める本だと思います。